

2023年12月22日  
公益財団法人 日本生産性本部

## 日本生産性本部、「労働生産性の国際比較 2023」を公表 日本の時間当たり労働生産性は 52.3 ドル(5,099 円)で OECD 加盟 38 カ国中 30 位

調査研究や提言、実践活動により生産性向上をめざす(公財)日本生産性本部(東京都千代田区、理事長:前田和敬)は、12月22日、「労働生産性の国際比較 2023」を公表しました。これは、当本部が OECD.Stat データベース等をもとに毎年計測・分析を行い、公表しているものです。

「労働生産性の国際比較 2023」では、2022年の日本の労働生産性(時間当たり及び就業者一人当たり)の国際的位置づけや2021年の製造業の労働生産性比較と併せて、コロナ禍以降の労働生産性の変化(2020年4～6月期以降の動向)についても分析しました。人口減少が進む日本において、生産性向上は喫緊の課題であり、政府や民間企業・組織も様々な取り組みを進めています。当本部では、日本の労働生産性の国際的な位置づけを定点観測し、今後の政策立案や施策の展開に役立てたいと考えています。

OECD データに基づく 2022年の日本の時間当たり労働生産性(就業1時間当たり付加価値)は、52.3ドル(5,099円)で、OECD加盟38カ国中30位でした。実質ベースで前年から0.8%上昇したものの、順位は1970年以降で最も低くなっています。就業者一人当たり労働生産性は85,329ドル(833万円)で、OECD加盟38カ国中31位となっています。

### 1. 日本の時間当たり労働生産性は、52.3 ドル。OECD 加盟 38 カ国中 30 位。

OECD データに基づく 2022年の日本の時間当たり労働生産性(就業1時間当たり付加価値)は、52.3ドル(5,099円/購買力平価(PPP)換算)。OECD加盟38カ国中30位だった。順位で見るとデータが取得可能な1970年以降、最も低い順位になっている。2021年と比較すると、実質ベースで0.8%上昇した。

### 2. 日本の一人当たり労働生産性は、85,329 ドル。OECD 加盟 38 カ国中 31 位。

2022年の日本の一人当たり労働生産性(就業者一人当たり付加価値)は、85,329ドル(833万円/購買力平価(PPP)換算)。ポルトガル(88,777ドル/866万円)のほか、ハンガリー(85,476ドル/834万円)やラトビア(83,982ドル/819万円)といった東欧・バルト海沿岸諸国とほぼ同水準となっている。順位で見ても、1970年以降で最も低い31位に落ち込んでいる。

### 3. 日本の製造業の労働生産性は、94,155 ドル。OECD に加盟する主要 34 カ国中 18 位。

2021年の日本の製造業の労働生産性(就業者一人当たり付加価値)は、94,155ドル(1,078万円/為替レート換算)。これは米国の6割弱(56%)に相当し、フランス(96,949ドル)とほぼ同水準。2000年にはOECD諸国でもトップだったが、2000年代に入ると順位が低落するようになり、2015年以降は16～19位で推移している。

※OECDが随時行うGDPデータや購買力平価レートなどの改定に伴い、全ての労働生産性の数値を過去に遡及して改定した。そのため、日本の労働生産性水準及び順位が昨年度報告書と異なっている。

レポート本文は、当本部の「労働生産性の国際比較」サイトよりご覧いただけます。

【本件に関するお問合せ先】 公益財団法人 日本生産性本部

◀内容>>生産性総合研究センター 木内 Tel : 03-3511-4016、e-mail : [research@jpc-net.jp](mailto:research@jpc-net.jp)

◀取材>>統括本部(広報) 伊藤、粕谷 Tel : 03-5511-2029、e-mail : [jpcpr@jpc-net.jp](mailto:jpcpr@jpc-net.jp)